

2020年度 講師派遣活動記録

事業名	環境教育およびエコロジカルライフを実践するための講座開催事業
------------	--------------------------------

活動名	ごみ減量啓発講座
------------	----------

担当者	高根 美保
------------	-------

主催団体	NPO法人エコライフはままつ
-------------	----------------

事業区分	講師派遣
-------------	------

事業サイクル	継続事業
---------------	------

活動の目的	環境行動の実践者を増やす（家庭ごみの減量）
--------------	-----------------------

実施内容	
活動日時	2020年9月8日(火)15:00~16:00
活動場所	佐鳴台協働センター
活動者名	高根美保, 藤田由己
詳細	<p>雑がみを知ろう 環境行動(3R)の説明、環境行動が必要な理由(ごみ処理経費の軽減、限りある最終処分場の延命、環境への負担軽減)、家庭形ごみの排出量・雑がみの量、雑がみについて(正しい出し方、分別の大切さ、出せない紙類、紙製容器包装認識マークについて)、トイレトペーパーの芯を使った種ポットづくり</p>

事業の成果	<p>参加者: 30名 配布物は、希望される方だけに配布を行います。一部は、協働センターにて希望する利用者への配布とした。 配布物実績: ごみ減量リーフレット 40枚、雑がみ啓発クリアファイル 40枚、雑がみ啓発うわち 40枚、雑がみ啓発マグネット 40枚、雑がみ回収袋 8枚、種ポット 4個、もったいない2R実践メモ帳 40冊</p> <p>参加者調査: 使用ごみ袋の大きさ(手を挙げた大体の人数) ごみ袋 45L 7~8名、30L 4~5名、20L 2~3名、10L 2人(2人家族、3人家族) ※10Lの2人家族の方は、生ごみも少なく週1回のごみ出しで問題ないとのことでした。 現在45Lの袋を使用している方々には、もえるごみから雑がみを出すことで減量できる実践をお願いした。「ごみの減量をしてくれますか!」の問いかけに1人だけ手を上げられなかった。理由は「既に取り組んでいます。」との回答でした。 質問 Q: セロハン付きの封筒の出し方 Q: 雑がみの回収はどこに出せるか? Q: 段ボールの回収場所はどこか? Q: 白の紙ひもを使う理由</p>
--------------	---

事業の課題	高齢の参加者が多く、新聞や段ボールを出せる場所への移動が難しいとの声があった。現在は、仕方なくもえるごみに出しているとの事。古紙のリサイクルを進めるには、車のない市民への対応も検討する必要がある。
--------------	--

記録添付

